

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072400346		
法人名	有限会社 筑後優友舎		
事業所名	グループホーム さざん家		
所在地	筑後市大字熊野124-3 (電話) 0942-42-2328		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果確定日	平成23年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- 1 地域に根差した事業所として、地域に溶け込み、地域に信頼して貰える事業所を目指す。
- 2 『あなたに寄り添った あなたらしい暮らしを』を実践すると共に、介護度の重度化に伴い看取りまでを提供したい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年9月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅地に明るい和風平屋建ての2ユニットの事業所である。広い敷地には、野菜畑といろいろな果実樹がある。また、周りは田園風景が広がり、自然環境に恵まれている。利用者の散歩や家族の訪問にも好適な立地にある。開設して7年目で、ホーム長を中心に職員のコミュニケーションが良くとれている。職員は熱意をもってケアに従事し、安心と尊厳ある生活が営まれるよう支援している。「医療的な処置を必要としない方なら最期まで介護したい」との施設長の方針に家族も安心して利用している。「あなたに寄り添った、あなたらしい暮らしを」との理念を実践している家庭的な優しいグループホームである。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念と実践目標があり、フロアにもスタッフ室にも掲示している。スタッフにもミーティング時などに、理念等を留意して介護実践するよう話している。	「住み慣れた地域の中で安心と尊厳のある生活、あなたに寄り添ってあなたらしい暮らし」との理念を掲げ、その目的・意義を念頭に置き、日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、クリスマス会、避難訓練時等に声掛けをして参加して貰えるよう心がけている。昨年は町内会の文化祭で歌を披露した利用者もいた。	自治会に加入し、事業所便りを地域に回覧している。地域行事の夏祭り・敬老会、道路愛護・廃品回収に参加している。事業所主催のイベント、夏祭りやクリスマス会には地域住民へ声かけし、交流が広がっている。近隣から野菜・花等のおすそ分けもある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月『さざん家だより』を町内会に配布して事業所に関心を持って貰えるよう努めている。また、管理者がキャラバン・メイトの研修を受け、昨年から3回の認知症サポーター養成講師を務めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では筑後市作成の状況報告書に基づいた報告を行い、出席委員からの意見や助言を頂いてスタッフに伝達し、介護向上に役立てている。	運営推進会議は定期的に開催している。事業所から利用者やサービスの実態を報告し、スタッフの資質向上等、委員から出た意見をサービス向上に活かしている。また、会議の中でハーモニカグループが結成され、利用者共に楽しんでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年度の筑後市介護保険課の緊急雇用促進プログラムの指定を受けた。また、今年度も受け入れて研修生2名を採用している。	行政担当者へ訪問やメール・電話で日頃から相談し、日常的に協力関係を築くようになっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居の際には、身体拘束をしない旨の説明をしている。また、契約書等にも明記している。玄関も施錠していない。日中は自由に入りできるようにしている。	身体拘束について運営規定の中に明文化している。職員は身体拘束により利用者の人間性を傷つけ不利益をもたらす事を理解している。言葉による抑制がなかったか等も含めて、職員同士身守り強化に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を受け、事あるごとにスタッフ間で『虐待になるかもしれない介護』を話し合っている。また、スタッフお互いで注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットも用意し、7月末に退去した利用者様が利用されていた。	管理者・職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、内部研修や外部研修に参加している。テキスト・パンフレットを整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に十分に時間を掛けて説明・納得して貰っている。また、何時でも説明をする旨の話をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏祭り時、クリスマス会時に（年に2回）家族会を開催して貰っている。ご家族だけの参加にして、自由に意見や要望・苦情を発言しやすい会となるようスタッフは入らない。会議後、会長様よりお話を伺っている。	家族会を年2回実施している。家族会から「利用者本人の健康状態・状況等書いた便りを、他の兄弟にも送って欲しい」との要望が出され、遠隔地にも郵送する等、運営に反映させている。家族の来訪時にも意見等聴くよう声掛けに努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が生じた時、または、毎月5日に定期的スタッフミーティングを開催している。意見や提案を出来るだけ反映するように努めている。	管理者は、毎月1回のミーティング時に職員の意見を聴く機会を設けている。勤務交代、仕事分担の見直し、介護ケアの気づきやアイデア等運営に取り入れている。職員の慰安旅行でもコミュニケーションを図っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備済みである。今年から3月に自己評価表を出して貰って、上役評価と合わせて昇給を決めた。また、キャリアUPを図るよう研修や資格受験を勧めているし、その為の勤務配慮もしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たり差別をしていない。東北震災に際して、福岡県のボランティアに応募したい職員には許可を出した（まだ実現はしていない）。	職員採用には、本人の意欲、介護への熱意、キャリアを考慮している。労働時間も本人希望に配慮し、外部研修は出勤扱いにするとか、資格取得には勤務調整を行う等資格取得に協力体制がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎日の介護実践では、利用者の人権尊重を第一に考え行動できるよう指導している。また、職員にも人権に関する研修参加を呼び掛けている。	職員は研修を受講しており、ミーティングでも人権教育に取り組み、人権に関する理解を深めている。テキスト・パンフレットを整備し、研修記録がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を積極的に受けるように資格獲得を目指したり、その為の勉強を大いに勤めている。また、勤務上の配慮も行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	筑後市グループホーム部会には、ホーム長や管理者、ケアマネジャーが交代で参加するようしている。スタッフの交流会にはスタッフが参加している。また、県グループホーム協議会にも参加し、研修にも積極的に出席するようになっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接、入居後のご家族様からの情報聴取には時間を掛け、利用者・ご家族様の不安を取り除けるよう努めている。また、情報提供書はスタッフ全員読めるようにしているし、カンファレンスも行い、利用者・介護者の相互理解を図っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時は勿論の事、入居初期には出来るだけ時間を取ってもらい、ご家族の要望等を聞き、スタッフ全員共有するようになっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・申込に来られた方には、見学は必ずしてもらい、現在の状況等をお聞きしている。また、他の事業所も紹介している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理を手伝って貰ったり、洗濯物たたみ、草取りの手伝い等を誘い、スタッフも一緒に行うようにしている。昔の献立や歌等も教わって、家族ではないけれど家族のような他人になれるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担にならない程度の外出や会食、受診時の付き添い等をお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は大歓迎している。老人会の方や隣人の面会も受けている。	利用者が、老人会のメンバーや隣人・友人に訪問してもらつつながりを継続できるよう支援をしている。身内の葬儀・法事等は家族の協力があり、また、筑後県南公園・船小屋公園等、ドライブを兼ねて馴染みの場所との関係が途切れない様支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行う際には、風船バレー等のチームゲームもしている。また、一緒に歌ったり、フロアでの会話を途切れないような配慮を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去した利用者や他施設への移られた方には、ご家族の了承を得てではあるが、面会を行ったりもしている。荷物をお預かりしている退去者もいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者がどのような毎日が送りたいのか、どのようにしたいのか等を言葉や行動から汲み取り、スタッフ全員で検討して介護に活かせるよう話し合う場を設けている。	職員は日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情、動きから思いの把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得るようにし、本人本位に真意を推し測って支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族は勿論、面会の知人にも話を聞いて利用者の生活歴の把握に努めている。小さい市なので大体の状況が分かる場合もある。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の事前面接、入居後のご家族様からの情報、また、入居前の医療施設からの申し送り等を活用しているが、状態変化で随時変更している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティング、ユニット別カンファレンスの場で、利用者一人ひとりの状態把握に努め、介護に工夫をし、家族にはケアプラン説明をして理解をして貰っている。また、状態変化の場合にもすぐに対応をして、ユニットスタッフに周知徹底を図っている。	介護計画は、本人や家族、関係者の気付きや意見を聞き、アイデアを反映しながら本人本位の計画を作成している。介護計画の見直しを3ヵ月から6ヵ月毎に行い、また、状態が変化した際には随時計画の見直しを行い、その都度家族等へ報告し、了承を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人別の記録を取り、スタッフには朝の申し送り、遅出・夜勤者には記録を確認することから勤務スタートとしている。見直しや注意点等は署名して見落とさないようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の受診付き添い、ご家族と外出された時の迎え等をしている。また、身体状態の変化で洋服サイズ等が分からなくなったご家族に代わり、衣服を購入する事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内短大の学生の研修受け入れ、ボランティアの受け入れ等を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には本人・家族の希望があれば、掛かりつけ医の継続をしている。また、内科、眼科、歯科の往診を依頼している。	利用者・家族が希望するかかりつけ医となっている。内科・眼科・歯科は訪問診療に来てもらっているが、通院介助が必要な場合は、基本的に事業所が行い、得られた情報を家族等へ報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正社員の看護師に毎日の健康上の注意や把握をして貰い、受診時、往診時には付き添い・立会いをしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供、入院中の見舞いや説明は看護師・管理者が行い、医師や看護師との信頼を得ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明をし、また、更に近づいた段階では再度、掛かりつけ医に家族へ説明をして貰っている。看取りもしている。	重度化・終末期についての事業所の対応方針があり、明文化している。重度化した場合は、利用者・家族等の意向を大切にしながら、本人・家族等・かかりつけ医・職員で話し合って合意を図り、全員で方針を共有して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変事には、掛かりつけ医の指示の下で対応できるようにしている。スタッフの半分以上が防火管理者講習を受講している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練（その内1回は夜間を想定した避難訓練）を実施し、緊急連絡網もある。消防署に直通の火災通報装置、消火器、スプリンクラーの設置もしている。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。地域住民に訓練への参加を呼びかけている。非常用食料・飲料水、災害に備えての備品等も準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	雇用時には守秘義務の誓約書に署名している。スタッフミーティング時にも言葉遣い、態度の向上に努めるよう話している。	職員は利用者の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている。又、研修等で職員の意識向上を図り、気付きや家族等からの意見があれば、管理者が注意し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が答えられるような問い掛け、耳が遠い人には集音器の利用をし、出来る限り自己決定をして貰えるよう配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の1日の流れは決めているが、本人の好きなように1日を過ごせるよう配慮している。昼寝も部屋でされたり、ソファでしたり。朝寝をする方もいる。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣は大体スタッフが行うが、希望を言える利用者には尋ねてから行う等の配慮をしている。また、衣服を1日に何回も着替える利用者もいる。マニキュアもする事も。訪問美容を利用、爪切り等も定期的に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下拵え、果物の皮むきもして貰っている。食器洗い、テーブル拭きをする利用者もいる。	職員と利用者は、一緒に準備や食事、片づけを行っている。食事が楽しみなものとなるように、利用者と職員が菜園で共に育てた野菜を収穫して調理したり、季節に合わせたメニューにしたり、戸外で食べる等工夫している。栄養のバランス・カロリーにも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福祉食献立を利用し、利用者一人ひとりの体重、状態に合わせた食事を提供している。食事量・水分量は記録がある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、夕食後の口腔ケア、就寝時の義歯の管理等を行っている。また、歯茎の状態によって歯ブラシも変えている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握で、早めの誘導を行い失敗を減らすように努めている。トイレでの排泄をして貰えるよう、歩行や立位訓練等を個人別に行い、出来るだけトイレ排泄を行っている。	職員は利用者一人ひとりのパターンやサインを把握し、排泄の自立支援に向けて支援している。夜間帯でオムツからリハビリパンツに改善した利用者もいる。尿意のない利用者には排泄チェック表を利用し、時間を見計らって誘導している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多いサツマイモのおやつ、野菜の多用をし、便秘解消に役立つ熟柿・みかん類の多用などを心掛け便秘薬を極力抑えている。また、排尿・排便記録を利用し一人ひとりの状態把握を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	午前・午後のバイタルチェックで入浴可否の判断を行い、個浴での入浴をしている。体力の事を考え、隔日での入浴となっているが、身体が汚れた時や希望があればその都度入浴をして貰っている。	職員のローテーションを工夫し、利用者の希望に沿うよう支援している。入浴を拒否される利用者には、仲の良い利用者から声掛けしてもらい、一緒に入浴してもらう等工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝、昼寝は個人の希望で行うが、自室での睡眠をせずにソファを希望する人もいる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録に、一人ひとりの処方薬の名前、用法、効能、用量の薬局から出された薬の説明書をファイルし、常に見られるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のシートに記入し、スタッフが把握し、介護に繋がれるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見、秋の遠足、ファミリーレストランでの外食を年中行事化して実施している。また、真夏や真冬の外気浴は少々無理だが、出来るだけ外気浴を兼ねた散歩を行い、近所の人との会話を楽しめるように努めている。	広い敷地を有する事業所の周りは、安心して散歩ができるよう配慮している。また、ウッドデッキでの日向ぼっこは利用者の好きな時間になっている。天気や体調に配慮して、外食や買い物、花見、ピクニック等にも月1回の頻度で支援を行っている。また、外出支援について家族の協力も得ている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人にはお金を持って貰ってはいない。しかし、近くの100円ショップでの買物を年に1回はしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳の遠い利用者が多いので電話する人は殆ど居ない。年賀状は本人に書いて貰い（書けない人は名前だけだったりするが）、投函している。ご家族からの電話の取り次ぎはする。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡餅、雛飾り、桜花の飾り、鯉のぼり、七夕飾り等のフロア飾りをして季節感を出したり、室温設定なども配慮している。	玄関脇や広い廊下には、ソファを置き、仲間同士寛げる場所になっている。壁面にはイベント時の写真や利用者や職員の共同作品である季節のちぎり絵（楓や柿の実）等が飾られている。リビングの一部には畳敷きもあり、居心地よい空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの隅にソファを置き、南側隅にウッドデッキ部分を設けて、他の利用者から離れて過ごせる場もある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、自宅からご自分の家具、布団、カーテン等の持ち込みをしてもらっている。テレビを持ち込んだり、仏壇を持って来た利用者もいる。	利用者の好みの壁掛け時計・仏壇・テレビ・ソファ、整理タンス・使い慣れた寝具等が持ち込まれている。壁には、本人誕生日や家族の写真に囲まれ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋造りで、段差の無い建物になっている。手摺りも設置し、陰の部分が無いような造りになっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念と実践目標があり、フロアにもスタッフ室にも掲示している。スタッフにもミーティング時などに、理念等を留意して介護実践するよう話している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、クリスマス会、避難訓練時等に声掛けをして参加して貰えるよう心がけている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月『さざん家だより』を町内会に配布して事業所に関心を持って貰えるよう努めている。また、管理者がキャラバン・メイトの研修を受け、昨年からは3回の認知症サポーター養成講師を務めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では筑後市作成の状況報告書に基づいた報告を行い、出席委員からの意見や助言を頂いてスタッフに伝達し、介護向上に役立てている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年度の筑後市介護保険課の緊急雇用促進プログラムの指定を受けた。また、今年度も受け入れて研修生2名を採用している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居の際には、身体拘束をしない旨の説明をしている。また、契約書等にも明記している。玄関も施錠していない。19時～8時は自由に出入りできるようになっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修は受けている。また『虐待に繋がりにかねない介護』を考え、管理者は勿論の事スタッフお互いで注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットも用意し、必要な方には説明をするつもりである。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に十分に時間を掛けて説明・納得して貰っている。また、何時でも説明をする旨の話をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏祭り時、クリスマス会時に（年に2回）家族会を開催して貰っている。ご家族だけの参加にして、自由に意見や要望・苦情を発言しやすい会となるようスタッフは入らない。会議後、会長様より会の内容や要望等を伺っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が生じた時には直ちに、または、毎月5日に定期的スタッフミーティングを開催している。意見や提案を出来るだけ反映するように努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備済みである。今年から3月に自己評価表を出して貰って、上役評価と合わせて昇給を決めるようにした。また、キャリアUPを図るよう研修や資格受験を勧めているし、その為の勤務配慮もしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たり差別をしていない。東北震災に際して、福岡県のボランティアに応募したい職員には許可を出した（まだ実現はしていない）。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎日の介護実践では、利用者の人権尊重を第一に考え行動できるよう指導している。また、職員にも人権に関する研修参加を呼び掛けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を積極的に受けるように資格獲得を目指したり、その為の勉強を大いに勤めている。また、勤務上の配慮も行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	筑後市グループホーム部会には、ホーム長や管理者、ケアマネジャーが交代で参加するようにしている。スタッフの意見交換・交流も行っている。また、県グループホーム協議会にも参加し、研修にも積極的に出席するようにしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接、入居後のご家族様からの情報聴取には時間を掛け、利用者・ご家族様の不安を取り除けるよう努めている。また、情報提供書はスタッフ全員読めるようにしているし、カンファも行い、利用者・介護者の相互理解を図っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時は勿論の事、入居初期には出来るだけ時間を取ってもらい、ご家族の要望等を聞きスタッフ全員共有するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・申込に来られた方には、見学は必ずしてもらい、現在の状況等をお聞きしている。また、他の事業所も紹介し、必ずしも入居せず、それ以外の方法を説明する場合もある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理を手伝って貰ったり、洗濯物たたみ、草取りの手伝い等を誘い、スタッフも一緒に行うようにしている。昔の献立や歌等も教わって、家族ではないけれど『家族のような他人』になれるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担にならない程度の外出や会食をお願いしている。また、外出の際には、さざん家のスロープ車の貸し出しもしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は大歓迎している。老人会の方や隣人の面会も受けている。利用者の『会いたい人』を聞いた場合はご家族に伝えるようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行う際には、チームとして行えるようなゲームもしている。また、一緒に歌ったり、フロアでの会話を途切れないような配慮を行っている。孤立しがちな利用者にはこまめに声掛けをするよう心掛けている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去した利用者や他施設への移られた方には、ご家族の了承を得てではあるが、面会を行ったりもしている。また、退院するまで交替で見舞いに行っている。退去後もご家族が相談に来られる事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者がどのような毎日が送りたいのか、どのようにしたいのか等を言葉や行動から汲み取り、スタッフ全員で検討して介護に活かせるよう話し合っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族は勿論、面会の知人にも話を聞いて利用者の生活歴・好み等の把握に努めている。小さい市なので大体の状況が分かる場合もある。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の事前面接、入居後のご家族様からの情報、また、入居前の医療施設からの申し送り等を活用している。毎日の観察の積み重ねで変更を随時している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティング、ユニット別カンファレンスの場で、利用者一人ひとりの状態把握に努め、介護に工夫をし、家族にはケアプラン説明をして理解をして貰っている。また、状態変化の場合にもすぐに対応をして、ユニットスタッフに周知徹底を図っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人別の記録を取り、スタッフには朝の申し送り、遅出・夜勤者には記録を確認することから勤務スタートとしている。見直しや注意点等は署名して見落とさないようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の受診付き添い、送迎はしているし、ご家族と一緒に外出したい時にはスロープ車を貸し出している。また、身体状態の変化で洋服サイズ等が分からなくなったご家族に代わり衣服の購入もする。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内短大の学生研修受け入れ、個人ボランティアの受け入れ、地域の踊り愛好会、隣地域の和太鼓愛好会に来て貰う等もしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には本人・家族の希望があれば、掛かりつけ医の継続をしている。また、内科、眼科、歯科の往診を依頼している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正社員の看護師に毎日の健康上の注意や把握をして貰い、受診時、往診時には付き添い・立会いをしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供、入院中の見舞いや説明には看護師・管理者が行い、医師や看護師との信頼を得ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明をし、また、更に近づいた段階では再度、掛かりつけ医に家族へ説明をして貰っている。看取りもやっている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変事には、掛かりつけ医の指示の下で対応できるようにしている。スタッフの半分以上が防火管理者講習を受講し、救急救命方法の研修もさざん家に来て貰い受講した。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練（その内1回は夜間を想定した避難訓練）を実施し、緊急連絡網もある。消防署に直通の火災通報装置、消火器、スプリンクラーの設置もしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	雇用時には守秘義務の誓約書に署名している。スタッフミーティング時にも言葉遣い、態度の向上に努めるよう話している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が答えられるような問い掛け、耳が遠い人には集音器の利用をし、出来る限り自己決定をして貰えるような配慮をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の1日の流れは決めているが、本人の好きなように1日を過ごして貰っている。テレビを見たり、リハビリしたり、レクリエーション参加も無理強いしないでその時の気持ちに合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣は大体スタッフが行うが、希望を言える利用者には尋ねてから行う等の配慮をしている。マニキュアをして喜ばれたり、毎月訪問美容を利用し整容に努め、爪切り等も定期的に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下拵え、果物の皮むき等をして貰いながら昔話が出やすい雰囲気作りを心掛けている。食器洗い、テーブル拭きをする利用者もいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福祉食献立を利用し、利用者一人ひとりの体重、状態に合わせた食事を提供している。食事量・水分量は記録をし、摂取量の把握をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、夕食後の口腔ケア、就寝時の義歯の管理等を行っている。また、歯茎の状態によって歯ブラシも変えている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握で、早めの誘導を行い失敗を減らすように努めている。トイレでの排泄を目指し、下肢訓練を個人別に行い、出来るだけトイレ排泄を行っている。また、昼夜で介護用品の使い分けをしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多いサツマイモのおやつ、野菜の多用をし、便秘解消に役立つ熟柿・みかん類の多用、外の散歩や屋内歩行などを心掛けている。また、排尿・排便記録を利用し一人ひとりの排泄状態把握を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	午前・午後のバイタルチェックで入浴可否の判断を行い、入浴時間帯、浴槽へ入る時間等一人ひとりに配慮した入浴をしている。体力の事を考え、隔日での入浴となっているが、身体が汚れた時や希望があればその都度入浴をして貰っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝、昼寝は個人の希望で行うが、気持ちよく夜眠れるよう日向ぼっこや外散歩、レク参加等をして貰う事で体内時計の調節が出来るよう努めている。自室での昼寝をせずにソファを希望する人もいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録に、一人ひとりの処方薬の名前、用法、効能、用量の薬局から出された薬の説明書をファイルし、常に見られるようにしている。また新しい薬が処方された時には看護師の説明、医師の説明を受けるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔のお菓子、手作りの菓子などをおやつに用いて、昔の話が出易いような雰囲気や、外気浴やレクで気分転換を図るようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見、秋の遠足、ファミリーレストランでの外食を年中行事化して実施。また、真夏や真冬の外気浴は少々無理だが、出来るだけ外気浴を兼ねた散歩を行い、近所の人との会話を楽しめるように努めている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人にはお金を持って貰ってはいない。しかし、近くの100円ショップでの買物を年に1回はしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳の遠い利用者が多いので電話する人は殆ど居ない。年賀状は本人に書いて貰い（書けない人は名前だけだったりするが）、投函している。本人の状態を知らせる為に毎月お便りを出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡餅、雛飾り、桜花の飾り、鯉のぼり、七夕飾り等のフロア飾りをして季節感を出したり、室温設定なども配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの隅にソファを置き、南側隅にウッドデッキ部分を設け、1人静かに過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、自宅から今まで使用していた馴染みの家具、布団、カーテン等の持ち込みをお願いしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋造りで、段差の無い建物になっている。手摺りも設置し、陰の部分が無いような造りになっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない